

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	生活科学科 生活科学専攻				8	8	7	
	生活科学科 食物専攻				8	8	7	
	保育科				8	8	7	
	言語コミュニケーション学科				8	8	7	
	音楽科				8	8	7	
	商科					8	8	7
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/42.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/15.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	無職	R4. 4. 8 ～R6. 4. 7	財務担当
非常勤	会社役員	R4. 4. 8 ～R6. 4. 7	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全ての授業科目において、下記の内容でシラバスを作成し、本学ホームページで公表している。年間の授業の計画は、年度初めに学生に配布するとともに、学内システムおよび本学ホームページに掲載している。</p> <p>【作成過程】 シラバス作成要領に沿って、授業担当教員が作成している。</p> <p>【作成項目】 科目名、担当教員名、単位、科目群、必修・選択、開講期、対象年次、授業概要、到達目標、授業計画、授業形態、授業時間外学習、評価方法、教科書、参考図書、備考(オフィスアワー、実務経験、科目ナンバー)</p> <p>【作業日程】</p> <p>1月31日(月)～2月10日(木) 2022年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業 2月14日(月)～2月25日(金) 教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック 2月28日(月)～3月7日(月) 学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告 3月8日(火)～3月14日(月) 学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出 3月16日(水)～ 次年度時間割発表 学生閲覧開始</p>	
授業計画書の公表方法	http://ptl.bunri-u.ac.jp/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学年当初に示す授業計画(シラバス)に、筆記試験や学習態度、実技等の学修成果の評価方法とそれぞれの評価割合について明示している。さらに、試験・レポート等の評価に対するフードバックの方法も示している。</p> <p>成績評価および単位認定の基準については、学則および履修要綱に定め、入学時に配布するキャンパスガイド等で学生に示し、適正に評価・認定している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【GPA の算出方法】

学期末に、各科目の成績評価の得点を、下表により 4, 3, 2, 1, 0 の数値 (グレート・ポイント という=GP) に置き換える。GP に当該科目の単位数を乗じて、その合計を総履修単位数で除する。(成績通知書の表記は小数第 3 位を四捨五入したものとす。)

評 価	得点	G P
優	90～100	4
	80～89	3
良	70～79	2
可	60～69	1
不認定／再試	0～59	0
追試／保留／取消 通年科目の途中評価	対象外	

GPA 算入科目：卒業要件の対象科目

(注) 次の科目も算入される。

- ・ 欠席時数が授業時数の 3 分の 1 を超え、定期試験を受験できなかった科目
- ・ 学期の途中で履修をやめたが登録取消の手続きをしていない科目
- ・ 再履修科目の過去の不認定科目

【GPA の算出式】

当期 GPA =

{ (当該学期の GPA 算入科目のうち履修登録した科目の GP) × (当該科目の単位数) } の合計 / 当該学期の GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

年間 GPA =

{ (当該年度の GPA 算入科目のうち履修登録した科目の GP) × (当該科目の単位数) } の合計 / 当該年度の GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

累積 GPA =

{ (当該学期までの GPA 算入科目のうち履修登録した科目の GP) × (当該科目の単位数) } の合計 / 当該学期までの GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数

【実施状況】

各学期末に卒業要件の科目を対象とし、上記方法により GPA を算出している。成績分布の図表は、学科学年ごとに作成する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/50.pdf キャンパスガイド等に記載し、入学時に全学生に配布 成績通知書発送時に説明文書を送付 学生ポータルサイトに説明文書を掲載
------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

短期大学の教育理念に基づき、各科・専攻において、どのような資質・能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与するかについてディプロマ・ポリシーを定め、「知識・理解」「思考・判断」「興味・関心・態度」「技能・表現」の 4 つの観点から具体的に示して公表している。加えて、卒業に必要な単位・年限を明示するとともに、卒業に係る学長と教授会の役割についても定めている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-dp.pdf https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/50.pdf キャンパスガイドに記載し、入学時に全学生に配布
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/2021kessansyo.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/2021kessansyo.pdf
財産目録	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/2021zaisanmokuroku.pdf
事業報告書	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/gijyo2022.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/2021kanjikansahoukokusyo.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.bunri-u.ac.jp/research/hyouka/j-college/pdf/bunri_college229.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.bunri-u.ac.jp/research/hyouka/j-college/pdf/bunri_college129.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 短期大学部 生活科学科
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf , キャンパス内 入学時配布)
(概要) 生活科学科は、生活、すなわち衣食住に関する学術を教授研究し、健康で快適な暮らし方に関わる専門的知識・技能を身につけ、時代や地域のニーズに応えられる人材を養成する。 ① 生活科学専攻は、衣食住における「ものづくり」とおして、創造力、問題発見・解決能力を身につけ、「生きる情熱」と「素の考える力」のある人材を養成する。 ② 食物専攻は、食生活に関する領域の学術を教授研究し、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、食品科学技術認定証の資格を取得し、食のスペシャリストを養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-dp.pdf , キャンパス内 入学時配布)
(概要) 生活科学専攻 【知識・理解】 1. 各専門領域にわたって、健康で快適な生活を支援できる能力を身につける。 2. 各専門領域を幅広く学ぶことによる広い視野と総合的な判断力を養う。 3. 各専門領域において基礎的な知識・技術から応用まで段階的に学び職業意識が定着する。 【技能・表現】 1. 健全な生活環境づくりを支援できる実践力を身につけ良識ある専門職業人を育成する。 2. 各専門領域、分野で求められる基本的な専門知識・技術が修得できている。 3. 得意分野の専門知識と技術を活かしプロとして社会に貢献できる人材を育成する。 【思考・判断】 1. モノづくりを通して深い教養と豊かな人間性を育てる。 2. 各専門領域において培った専門的な知識・技術を活かし、課題解決ができる能力を身につける。 3. 各専門領域の創作活動によりクリエイション能力を身につけ発想力豊かな人材を育てる。 【関心・意欲・態度】 1. 社会で活かせる実践力を身につけた専門職業人を育成する。 2. 明るく行動力があり、常に前向きで向上心溢れた人材を育成する。 3. 職場や地域社会、多様な人々と仕事をしていく上で必要なコミュニケーション能力や考える力を育成する。 食物専攻 【知識・理解】 1. 栄養と健康のプロとしての栄養士に必要な実務能力を修得している。 2. 栄養と健康と食に関わる基礎および専門分野の知識を獲得している。 3. 社会人に必要とされる幅広い教養を身につけている。

【技能・表現】

1. 栄養と健康と食に関する知識を学び、ひとびとの健康管理に携わる技術を修得している。
2. 理論に基づく多彩な実習や実験を通し、栄養士としての実践力を身につけている。
3. 人の食に関わる指導についての技能や表現する力を獲得している。

【思考・判断】

1. 基礎および専門分野の理論を基に、多面的な実務能力の習得を通して実践の場で応用できる自己判断力を修得している。
2. チームの一員として個々の役割を理解し、協調性を持ちつつ自主的な行動がとれる。
3. 課題発見、解決を通して、社会における基本的思考力や状況判断能力をもつことができる。

【関心・意欲・態度】

1. 健康維持・増進の大切さを理解し、自らの食生活を自己評価することができる。
2. 食や健康について興味と関心を持ち、社会における現状と課題を自主的に探求できる。
3. 食の専門家としての意識を高く持ち、社会人としての基本的マナーやルールを身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページ <https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-cp.pdf> ,
キャンパス内入学時配布)

(概要)

生活科学専攻

生活科学専攻は、「ものづくり（ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アート）」業界で働くための教養と基礎知識、そして業界別の専門能力を養成するという教育目的、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を編成している。

1) 1年次

1. 社会に必要な知識と教養を身につけるために一般総合科目と、キャリア能力を養成する講義科目を配置する。
2. 専門能力を養成するうえで基礎知識となる、ライフスタイルを学ぶ講義科目を配置する。
3. 専門能力養成の重要な基礎技能である、デザインスキルとカラースキルを養成する講義や演習科目を配置する。
4. ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各専門業界における基礎知識や基礎技能を習得する講義や演習科目を配置する。

2) 2年次

1. ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各分野では制作技能の向上を図る演習科目を配置し、卒業制作展で発表している。
2. パティシエのため、食品に関する専門的な知識を修得する講義科目を配置する。
3. ブライダルコーディネーターではブライダルファッションショーの開催という共同作業を通じて、ブライダル業界の知識修得のみならず、社会における基本的思考能力や状況判断能力を養成するようにしている。

食物専攻

食物専攻は、健康維持・増進の大切さを理解し、自らの食生活を評価できるとともに、チームの一員として協調性を持ちつつ自主的な行動がとれる栄養士の養成を図り、栄養と健康と食に関わる専門分野の知識および技術を修得している食のスペシャリストを養成するという教育目的、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。

1. 1年次では、食品・栄養・調理に関する専門的な知識と方法論を体系的に学ぶため、前期では、食物専攻での学習意欲を高めるための講義を中心とした専門教育科目の基礎的内容を学習する。さらに後期には、前期に学んだ知識を実験・実習で検証するよう順次設定している。
2. 1年次より、社会人に必要とされる幅広い教養を身につけるための一般総合科目を配置

<p>すると同時に、前期には入門的な調理の基礎や食文化を学ぶ内容を文理学に設置し、食物専攻での学び方の一端に触れることができるようにしている。</p> <p>2年次では、1年次で培った食品・栄養・健康に関わる基礎的内容を、卒業時には応用・実践力を持つ栄養士であるよう、基礎から応用につながるような講義と実験・実習を取り入れ系統立てた教育内容を実施している。</p> <p>3. 全学年を通じて、食品や栄養学的な知識を基にした調理技術、ライフステージおよび病弱者、疾病に対応した献立作成能力、食育が行えるような栄養指導能力など、健康を維持するための基礎技術・能力を育成するため多様な実験・実習科目を提供している。</p> <p>4. 2年後期の給食運営管理実習（臨地実習）では、集団給食施設において、これまで学習した専門的知識と技術を統合するとともに、課題発見や解決を通して、社会における基本的思考力や状況判断能力を持つことができるようにしている。</p> <p>5. 学生が幅広く関心のある科目を履修できることを目的として、栄養士の専門基礎科目および専門科目に加えて、食品関係資格に通ずる専門科目、教職に関する科目を設置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-ap.pdf , キャンパスサイト 入学時配布, 入学試験要項, 大学案内）</p>
<p>（概要）</p> <p>生活科学専攻</p> <p>(1) 感性が豊かで、表現することに強い興味・関心がある人</p> <p>(2) パティシエとして創作の基礎とその美的センスを磨きたい人</p> <p>(3) ブライダルやデザインなどに興味・関心がある人</p> <p>食物専攻</p> <p>(1) 人とのつながりを大切にし、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人</p> <p>(2) 健康や栄養、調理に興味・関心があり、食に関する学習に継続的に取り組むことができる人</p> <p>(3) 各種資格取得に励み、食の専門家をめざす人</p>

<p>学部等名 短期大学部 保育科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>（公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf , キャンパスサイト 入学時配布）</p>
<p>（概要）</p> <p>保育科は、次世代を担う子どもの成長と幸福を支援できる専門的知識・技能を習得し、保育を創造する能力、豊かな感性と総合的実践力を備えた人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>（公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-dp.pdf , キャンパスサイト 入学時配布）</p>
<p>（概要）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>1. 乳幼児の子どもと関わるための保育理論や専門知識を体系的に修得する。</p> <p>2. 保育内容に関わる専門知識・理解の成果を保育の現場で適切に用いることができる。</p> <p>3. 社会人としての幅広い教養と豊かな人間性を備えている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>1. 乳幼児の子どもを客観的にとらえ、子どもの心の動きを察知する力を身につける。</p> <p>2. 保育に関する専門知識・技術をふまえた、保育における実践力を身につける。</p> <p>3. 自らの実践を省察することによって新たな課題を発見し、解決することができる。</p>

<p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育に対して常に謙虚で前向きな姿勢で取り組むことができる。 2. 実習，ボランティア活動，地域社会での社会経験を通して，自身の力量や専門職としての自覚をもち，自己の向上に努める。 3. 社会の変化に伴う多様なニーズに対応できる論理的思考力，判断力，問題解決力を身につけている。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の子どもの育ちを支える専門家を目指し，保育に対して常に謙虚で前向きな姿勢で取り組むことができる。 2. 社会の一員としての自覚を持ち，他者と協調するためのコミュニケーション能力を身につけている。 3. 他者と良好な関係を築き，保育の仕事に誇りと責任を持ち，人間性と専門性の向上を目指す。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-cp.pdf ， キャンパスガイド入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>保育科のカリキュラムは，ディプロマ・ポリシーに明記している保育者として必要な能力を修得するために，次の方針で編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2年間で，全学生の保育士資格・幼稚園教諭2種免許状取得を目指したカリキュラムである。 2. 豊かな人間性と社会人として求められる幅広い教養を身につけ，心身ともに健康な人間を育成するために一般総合科目を配置する（人文科学，社会科学，自然科学，外国語，体育・スポーツ，文理学，ボランティア等）。 3. 保育者の養成科目について，順序性を考慮し，編成する。 4. 子どもの心身の発達について広く理解し，支援について学ぶために，子どもの心身の発達にかかわる科目を配置する。 5. 保育者の役割と倫理について理解し，保育・教育の意義や内容・方法についての理解を深めるために専門知識・技術の修得にかかわる科目を配置する。 6. 保育現場での課題を発見し，新たな課題に対し，自主的に問題解決に取り組むことができる柔軟で創造的な思考力を持った人材を育成するために，実習科目，保育・教職実践演習（幼稚園）を配置する。 7. 学生の主体性を養うことを目的とし，「保育講座」「保育セミナー」「おとぎのくに」「出前保育」などの学科行事に参加・推進する機会を設ける。 8. 社会の一員としての自覚を持ち，地域の人々と良好な人間関係を築くことができるよう，子育て支援などのボランティア活動に参加することを，キャリア教育の一環として推奨する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-ap.pdf ， キャンパスガイド入学時配布，入学試験要項，大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育者をめざして努力できる人 (2) マナーを尊重し，他者とコミュニケーションをとりながら良好な人間関係を築くことができる社会性のある人 (3) 子どもの保育及び教育に関心をもち，子どもに対し豊かな感性と温かい愛情をもって接し，人のために役立ちたい人

<p>学部等名 短期大学部 言語コミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf , キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 言語コミュニケーション学科は、プレゼンテーション技術を身につけることを教育の核にし、日本語・英語の表現能力、情報機器の効果的な利用法を習得し、地域社会に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-dp.pdf , キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対話型コミュニケーション能力、すなわち、単なる情報の理解にとどまらず、相手の説得ができる能力を習得する。 2. グローカルな能力、すなわち、自分の国や地域の文化を理解しながら、異文化に対しても理解を示す能力を習得する。 3. 日本の文化・西洋の文化における幅広い文学・音楽・絵画などを理解し、その内容を発信できる能力を習得する。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書かれている文章を論理的に読み解く技術を習得する。 2. 文章理解を意見・評価・批判に発展させる技術を習得する。 3. 意見・評価・批判を実際の社会的行動につなげるよう練習する。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書かれている文章の論理的な理解から、考え抜く力を養成する。 2. 意見・評価・批判を発表することにより、前に踏み出す力を養成する。 3. 実際に社会的な行動をとることによって、チームで働く力を養成する。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健全な価値観と倫理観を持った良き市民・良き家庭人を目指す。 2. 英米文化を含めた幅広い文学・音楽・絵画などへの興味・関心を示す人物を目指す。 3. 社会で規範となっている基本的マナーやルールを尊重する人物を目指す。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-cp.pdf , キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 言語コミュニケーション学科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している能力・技術の習得のため、次の方針で編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対話型コミュニケーション能力養成のため、書かれている文章を論理的に解釈する能力ならびに効果的なプレゼンテーションが出来る能力の習得に努める。 2. グローカルな能力養成のため、日本・西洋の文化に関する基礎的な知識を習得することに努める。 3. 日本・西洋の文化に関する話題を発信する能力養成のため、文学・文化論に関する基礎的な知識を習得することに努める。 <p>文章を論理的に読み解く技術習得のため「言語とコミュニケーション」を専門科目群の中で必修科目として配置し、「日本語表現法 I」と「日本語表現法 II」についてはほぼ全員に科目登録を奨励している。また、プレゼンテーション関連科目としては「プレゼンテーション概論」、「プレゼンテーション演習 I」、「プレゼンテーション演習 II」、「情報機器利用プレゼンテーション演習」の主に4つからなる専門科目を配置する。</p> <p>プレゼンテーション能力を「観光総論」、「旅行業務入門」、「ホテルサービス論」、「航空産業入門」、「エアラインサービス論」などの社会人としての思考・判断の訓練</p>

<p>につなげる。</p> <p>グローバルな能力育成のため「異文化間コミュニケーション」や「国際社会と日本」などの専門科目を配置する。また、英語での思考・判断の訓練を行うため「総合英語」、「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「英会話Ⅲ」、「英会話Ⅳ」を専門科目として設置している。</p> <p>日本・西洋の文化を含め幅広い文学・音楽・絵画などの基礎的知識を提供するため「英米文化論」、「英米文学」、「日本文化論」、「日本文学A」、「日本文学B」、「日本文学C」などの専門科目を設置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法: ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-ap.pdf , キャンパスガイド 入学時配布, 入学試験要項, 大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) 観光ビジネス, 航空産業などに興味・関心があり, コミュニケーション能力に磨きかけたい人</p> <p>(2) 英語学習に興味・関心があり, 英検準2級程度の能力をもつ人</p> <p>(3) 英米文化を含めた幅広い文学・音楽・絵画などへの興味・関心をもち, 異文化に対する理解を深めたい人</p>

<p>学部等名 短期大学部 音楽科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf , キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>音楽科は, 音楽学に関する学術を教授研究し, 音楽にかかる専門的知識・技能, 豊かな教養を備え, 実社会に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法: ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-dp.pdf , キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>短期大学部音楽科の教育課程において, 所定の単位を修得し, 「自立協同」の精神を基本に, 次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。</p> <p>●音楽療法コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養を身につけ, 芸術と科学の融合である音楽療法について理解し, 人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】 【関心・意欲・態度】 世界基準 (Global) の音楽療法を学び, 地域 (Local) の高齢者のヘルスケアニーズに応えられる, “グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】 【技能・表現】 高齢者を対象とした音楽療法について理解するとともに, 他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】 【関心・意欲・態度】 自らの関心や提議された問題について探索し, 知識を得ること, またセラピーの実践を積み重ねることにより, 学問において, また人間的に, 生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】 【関心・意欲・態度】 <p>●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 音楽の歴史, 理論, 様式, 体系を理解し, 身につけている。【知識・理解】 上記①に則した演奏能力, 創作能力を身につけ, 自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】 【技能・表現】 上記②を基盤とし, 合奏や合唱などのアンサンブルを通して, 協調性, 社会性を身につけている。【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【技能・表現】

<p>4. 専門分野のみならず幅広い教養を身につけ、音楽関係、教育関係、一般企業など様々な分野で活躍する能力を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-cp.pdf , キャンパスガイド入学時配布)</p>
<p>(概要) 短期大学部音楽科は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。</p> <p>●音楽療法コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士(2種)養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。 2. 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。 3. とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論Ⅱ」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準(AMTA Standards of Clinical Practice)にもとづき、1) 紹介と受け入れ、2) アセスメント、3) 治療計画、4) 実施、5) ドキュメンテーション、6) 終結、という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。 4. 2年次の「音楽療法実習」では、「事前指導」を配置し、教員および学生間による援助を大きく受けながら、地域の病院、福祉施設等の高齢者のニーズを特定し、グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。 5. 2年次の「音楽療法実習」において、地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し、プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより、自らの探求する力、また音楽療法を他者に伝え、説明する力を養う機会を創出する。 <p>●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次は、音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に、音楽に対する学修意欲を高めるため、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。また、幅広い知識を身につけるための一般総合科目を配置する。 2. 一部の演習系科目と実技系科目においては、習熟度別のクラス編成を行い、一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。 3. 全学年を通して、「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」において、基礎的な内容から専門的な内容の科目まで、順次配置する。 4. 中学校教員免許(2種)を取得するため、また音楽指導者をめざすための科目として、全学年を通し、「教育系科目」を順次配置する。 5. 音楽療法士(2種)を取得するための科目として、全学年を通し、「音楽療法系科目」を配置する。 6. 2年次修了時には、卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し、2年間の研究成果を評価する。 7. 「卒業演奏会」を開催し、卒業試験における成績優秀者には発表する機会を提供する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-ap.pdf , キャンパスガイド入学時配布, 入学試験要項, 大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人 (2) 音楽あるいは音楽療法を深く学び、社会に貢献したい人

学部等名 短期大学部 商科
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf , キャンパス内入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>商科は、ビジネスにかかわる学術を教授研究し、情報処理技能をはじめ、商業の領域にかかる専門的知識・技能、企業で生かせる豊かな教養、コミュニケーション力を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-dp.pdf , キャンパス内入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス活動に必要とされる実務能力を身につける。 2. 「商」に関わる幅広い学術分野の専門能力を身につける。 3. 社会人に必要とされる教養力を身につける。 <p>【技能・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あらゆるビジネスに要求される「簿記」「パソコン処理」「事務」に関する具体的・実践的技能を獲得する。 2. 商業活動を支えるさまざまなシステム（経済・経営・商品・法・心理など）についての専門的技能を獲得する。 3. キャリア教育を通してプレゼンテーション能力と自己表現力を高める。 <p>【思考・判断】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記、パソコン、事務、ビジネス実務、キャリアに関する多面的な実務能力の習得を通して、実社会で活用し応用できる自己判断力と論理的思考力を養成する。 2. 商業・経営・経済・財政・法・商品・情報など各分野の理論的学習を通して、社会の実態を立体的かつ複眼的に分析し、問題解決手段の糸口を探る方法を模索する。 3. 社会人として活躍する際に要求される基本的思考力や状況判断能力を養成する。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス社会が要請する高度な実務能力の習得を目指す。 2. 社会の動きに興味と関心を持ち、地域社会の現状と課題を自主的に探究できることを目指す。 3. 社会人としての意識を抱きつつ、社会で活躍するために必要な基本的マナーやルールの習得を目指す。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-cp.pdf , キャンパス内入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商科で掲げたディプロマ・ポリシーを実現するために、9科目群を配し、履修科目が特定領域に偏ることなく社会人として求められる幅広い知識を身につけることが可能となる。科目群は以下の通りである。「教養」、「簿記」、「パソコン」、「医療事務」、「パソコンスキル」、「キャリア能力」、「経済」、「商業・経営」、「法律」。とりわけ、1年次前期において、「教養」科目群を必修とし、基礎となる教養力を身につける。 2. 1年次において経済学や経営学を配し、理論と現実の両面を学び、陳腐化することのない知識を得るだけでなく、思考的枠組みに幅を持たせることが可能となり、経済社会の現実的な側面を様々な視点から考えることが可能となる。 なお、ビジネス実務コース、医療事務コースの2コースを設けるが、履修科目が特定領域に偏ることなく幅広い知識を身につけるとともに、実務能力としてのスキルを磨いて幅を広げ、専門能力を身につけて即戦力となる社会人を育成する。また、実践的

能力を身につけた証として簿記検定、PC 検定、医療秘書技能検定、秘書技能検定、販売士検定などの資格取得を目標とする。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/junior-ap.pdf , キャンパスガイド入学時配布, 入学試験要項, 大学案内)</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) 社会で必要とされる各種資格取得に励み、就職に活かしたい人 (2) 政治や経済などに興味・関心をもつとともに、自分の適性に相応しい進路を模索したい人 (3) 他者とコミュニケーションを図り、良好な人間関係を築くことができる社会性のある人</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法： https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/23.pdf</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
生活科学科	—	5人	3人	0人	0人	0人	8人
保育科	—	3人	4人	2人	0人	0人	9人
言語コミュニケーション学科	—	2人	2人	2人	0人	0人	6人
音楽科	—	2人	2人	0人	0人	0人	4人
商科	—	2人	2人	1人	0人	0人	5人
一般総合科目	—	0人	2人	0人	2人	0人	4人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
3人		68人					71人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/index1.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活科学科	80人	18人	22.5%	160人	45人	28.1%	—	0人
保育科	70人	13人	18.6%	140人	29人	20.7%	—	0人
言語コミュニケーション学科	20人	11人	55.0%	40人	25人	62.5%	—	0人
音楽科	20人	4人	20.0%	40人	8人	20.0%	—	0人
商科	40人	24人	60.0%	80人	46人	57.5%	—	0人
合計	230人	70人	30.4%	460人	153人	33.3%	—	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	就職者数 (自営業を含む。)		
		進学者数	就職者数	その他
生活科学科	19人 (100%)	2人 (10.5%)	14人 (73.7%)	3人 (15.8%)
保育科	19人 (100%)	2人 (10.5%)	17人 (89.5%)	0人 (0.0%)
言語コミュニケーション学科	11人 (100%)	0人 (0.0%)	9人 (81.8%)	2人 (18.2%)
音楽科	4人 (100%)	3人 (75.0%)	1人 (25.0%)	0人 (0.0%)
商科	29人 (100%)	1人 (3.4%)	23人 (79.3%)	5人 (17.2%)
合計	82人 (100%)	8人 (9.8%)	64人 (78.0%)	10人 (12.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内			
		卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全ての授業科目において、下記の内容でシラバスを作成し、本学ホームページで公表している。年間の授業の計画は、年度初めに学生に配布するとともに、学内システムおよび本学ホームページに掲載している。</p> <p>【作成過程】 シラバス作成要領に沿って、授業担当教員が作成している。</p> <p>【作成項目】 科目名、担当教員名、単位、科目群、必修・選択、開講期、対象年次、授業概要、到達目標、授業計画、授業形態、授業時間外学習、評価方法、教科書、参考図書、備考（オフィスアワー、実務経験、科目ナンバー）</p> <p>【作業日程】</p> <p>1月31日(月)～2月10日(木) 2022年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業 2月14日(月)～2月25日(金) 教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック 2月28日(月)～3月 7日(月) 学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告 3月 8日(火)～3月14日(月) 学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出 3月16日(水)～ 次年度時間割発表 学生閲覧開始</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学年当初に示す授業計画（シラバス）に、筆記試験や学習態度、実技等の学修成果の評価方法とそれぞれの評価割合について明示している。さらに、試験・レポート等の評価に対するフィードバックの方法も示している。</p> <p>成績評価および単位認定の基準については、学則及び履修要綱に定め、入学時に配布するキャンパスガイド等で学生に示し、適正に評価・認定している。</p>																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業に必要な単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">短期大学部</td> <td>生活科学科 生活科学専攻</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>生活科学科 食物専攻</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>保育科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>言語コミュニケーション学科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>音楽科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>商科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	短期大学部	生活科学科 生活科学専攻	62 単位	有・無	単位	生活科学科 食物専攻	62 単位	有・無	単位	保育科	62 単位	有・無	単位	言語コミュニケーション学科	62 単位	有・無	単位	音楽科	62 単位	有・無	単位	商科	62 単位	有・無	単位
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)																										
短期大学部	生活科学科 生活科学専攻	62 単位	有・無	単位																										
	生活科学科 食物専攻	62 単位	有・無	単位																										
	保育科	62 単位	有・無	単位																										
	言語コミュニケーション学科	62 単位	有・無	単位																										
	音楽科	62 単位	有・無	単位																										
	商科	62 単位	有・無	単位																										
<table border="1"> <tr> <td>GPAの活用状況（任意記載事項）</td> <td>公表方法：</td> </tr> <tr> <td>学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)</td> <td>公表方法：</td> </tr> </table>	GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法：	学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：																										
GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法：																													
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：																													

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法： https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/60.pdf</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	専攻名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
生活科学科	生活科学専攻	630,000円	200,000円	336,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	食物専攻	630,000円	200,000円	388,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
保育科		630,000円	200,000円	388,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
言語コミュニケーション学科		630,000円	200,000円	336,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
音楽科		860,000円	250,000円	466,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
商科		630,000円	200,000円	388,300円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費

※その他の納付金

- ・入学手続き時のみ研修部入会金 1,000円
- ・休学する者は学費等を免除、ただし休学在籍料として 120,000円(年間)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要)
<p>1. 入学前教育</p> <p>総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試合格により、早くから本学への入学が内定している高校生を対象に、学習意欲の維持、高校レベルの学習の貫徹を目的に、一般総合科目の教科書、参考書、書籍等の配布、レポート提出等の入学前教育を実施し、e-ラーニング学習補助教材も導入している。この取組は、入学後に必要となる文章読解能力やレポート作成能力を助け、大学に入学する心の準備を促している。</p>
<p>2. 新入生導入教育等</p> <p>平成 19(2007)年度より新入生導入教育として理事長、学長等による「文理学」を開講した。また、教育目標の達成のために、年度初めに学生に履修ガイド、要覧を配布するとともに、オリエンテーションを実施し、教育課程の編制方針、学生にとって卒業に必要な単位数、履修科目について説明を行っている。また、低年次に一般総合科目・専門導入科目の履修を取り入れた、くさび型の教育課程を編成している。</p>
<p>3. シラバスの充実</p> <p>学生が授業科目・授業内容について、キャンパスガイド及び Web 上で公開されたシラバスにより常時確認できる体制を整えている。平成 25(2013)年度より、授業形態と授業時間外学習の欄を設け、学生に時間外学習を促すための取組を行っている。また、平成 29(2017)年からは学生からの相談に対応するため、備考欄に「オフィスアワー(学生からの相談や質問を受け付ける時刻と場所を明示)」を記載している。</p>
<p>4. 学習ポートフォリオの電子化</p> <p>本学では、従来の紙媒体ではなく、電子化学習ポートフォリオを導入し、学生のモチベーションと学習到達度を高める体制を整えている。ここでは、学生が自宅等での学修やアルバイト等に費やした時間も調査して分析し、担任やチューターによる指導に役立てている。</p>
<p>5. クォーター制の導入</p> <p>平成 26(2014)年度から一部科目においてクォーター制を導入した。本学では、科目の特性によりクォーター制とセメスター制を併用している。クォーター制では、講義が週 2 回行われるため、学修に集中ができ、講義毎の理解度を向上させることができる。また、定期試験</p>

が分散し一度に行われる試験科目が減少するため、学生は一科目への取組を強化することができる。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

1. 組織

本学では、創立以来「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と地域及び世界の発展に貢献する人材を育成することを目標に、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしている。学生の就職支援については、学長を委員長に、各学部代表委員からなる就職支援委員会とインターンシップ推進委員会を連携軸に、各学部学科担任・チューターをはじめ、就職支援部、全学共通教育センター、教員養成対策室が連携し、全学を挙げての支援を行っている。

2. 取組の概要

本学では特色ある各学科で取得した資格や知識を生かした就職に向けた支援を充実させるため、一般企業・公務員・教員に分けた支援を行い、全体をとおした支援は就職支援部で実施している。

また、保護者に対しては、夏季休業中を中心に全国 16 カ所で開催の保護者会で担任及び就職支援部の就職相談を実施している。

採用活動のオンライン化にいち早く対応するなど、急激に変化する就職活動に即した柔軟な取組を推進している。

(1) 一般企業対策支援

各種支援策を就職支援部が中心となって実施している。1人1人の学生のニーズや各学科の特質に対応するため、学科担当を決め入学時から継続したきめ細やかなサポートを行っている。この他、学生の就職先を中心に新たな企業も含めた事業所訪問・求人開拓等の支援を行っている。

また、卒業後も随時の就職相談に対応しており、卒業後1年間の学内就職支援システムの学外からの利用の便宜も図っている。

○キャリア推進プログラム

- ・全学部の1年生全員を対象にキャリアガイダンスを実施。
- ・インターンシップガイダンスによるインターンシップ参加の推進。
- ・インターンシップ推進委員会による各学科におけるインターンシップ推進。

○就職支援プログラム

- ・就職セミナーの実施(就活サイト登録と活用、インターンシップ対策、企業研究と就職情報の収集、就職活動のマナー、自己分析、自己PR文の作成、SPI・筆記試験対策、論作文対策、応募書類の書き方、面接試験対策、模擬面接演習、集団討論対策、企業説明会への参加、就活直前対策、後期スタートアップ講座、2年生対象ウォームアップセミナー)
- ・就職試験の内容に対応した就職試験対策集中講座を年2回実施
- ・就職常識・能力の模擬試験の実施、適性検査の実施
- ・就職状況調査を年3回実施
- ・就活ツアー(大阪)の実施と事前説明会の実施
- ・学生と企業等との交流会の実施と事前説明会の実施
- ・学内合同企業説明会や個別の企業説明会の実施
- ・学内就職支援システム及び求人受付NAVIによる就職情報のインターネット提供
- ・いつでも対応する個別面談による常時相談の実施と面接・マナー・書類添削指導、カウンセリング

(2) 公務員対策支援

全学共通教育センターが「公務員試験対策講座」を開講し、筆記試験対策をはじめ、自治

体ごとの詳細な情報を提供するとともに、随時、相談に応じている。また、就職支援部で公務員模擬試験の実施や各種公務員説明会の開催、公務員就職体験発表会等を行っている。

(3) 教員・保育士対策支援

全学共通教育センターが採用試験対策のための「教員養成対策講座」や教職ガイダンス・各種セミナーを開講し、筆記試験や面接、模擬授業等の指導を行うとともに、模擬試験を実施している。また、次年度対策として「教員・幼保合格体験発表会・交流会」を開催している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

○保健衛生

1. 各種健康診断
2. 健康相談
3. 救急・応急処置
4. 健康の保持増進及び予防啓発
5. 健康診断書の発行
6. 各種調査・報告
7. 学研災・付帯賠償保険への加入および保険金請求

○メンタルヘルス

1. 精神に関する相談
2. 対人関係の相談
3. 性格相談
4. 発達障害の相談
5. ハラスメント相談
6. 保護者からの相談
7. 学生に関する教職員の相談
8. 専門機関への紹介

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.bunri-u.ac.jp/research/>
<https://www.bunri-u.ac.jp/faculty/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F236310110281
学校名	徳島文理大学短期大学部
設置者名	学校法人村崎学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		19人	17人	19人
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				19人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		-	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		-	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		-	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		-	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。